

日本共産党川棚支部

町議会議員 久保田かずえ

電話(八三)一三三九八



山道浄水場

## 防災につよい町づくりを

久保田かずえ町議は、二期目を迎えた六月町議会において、防災・原発問題など三点について一般質問を行いました。

### 久保田かずえ

川棚町地域防災計画書を見ると、危険箇所一覧表には、地滑り、山崩れ、決壊の恐れのあるため池が掲載されている。地滑りについては、本町の西部地区で地滑りを起こしやすく、中部地区では山崩れが起きやすい箇所が多いとある。洪水に対するハザードマップは作成されているが、地滑り山崩れ、ため池についても作成すべきであると考ええる。また避難場所についても、川棚町の人口を考えると、拡大が必要と考える。拡大して周知徹底すべきと考えるが、町長の見解を尋ねます。

### 町長

川棚川流域のハザードマップ

には、土砂災害の危険箇所は明記している。他の箇所については県の調査が完了し、危険箇所の指定がなされたあと検討したい。

ため池についても、土砂災害のハザードマップと合わせて検討する。

避難場所の拡大については、難しい面があると判断している。周知徹底はなされている。

### 久保田かずえ

ハザードマップはあくまでも紙であり時間が経てば印刷も薄く折れ目が破れたり、紛失したりする。避難場所に立て看板を立てて日頃から町民の目につくようにしてはどうか。

### 町長

避難場所についての表示は、今後、表示をすることで計画をしていきたい。

### 久保田かずえ

上下水道の耐震化について尋ねます。

山道浄水場は、昭和十七年に軍の水道施設として築造され、昭和二一年に町に譲り渡された。

川棚町は雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動の場合、最大で震度4〜5弱が想定されると、長崎県市町消防広域化推進計画案の中に記載されている。現在の施設で耐震化は十分か、町民のライフラインを守るためにも、耐震化に早急に取り組むべきと考えるが尋ねる。

### 町長

昭和六二〜六三年にかけての拡張工事により、現在の管理棟、その中にある電気計装設備、ポンプ設備、急速濾過池等の設備を行いましたので、これらの設備については耐震化は図られている。しかし急速濾過池7池のうち1〜4号池と、それに関する配管等は七〇年程

度を経過しており、耐用年数を過ぎていく。

昭和五三年までに建設された急速濾過池5〜7についても耐震化に十分配慮した施設ではない。水槽構造物の崩壊、場内配管の離脱等予想される。耐震化については、早急に対応する必要があると認識している。

## 原発事故に対する防災計画を

### 久保田かずえ町議

福島第一原発事故はチェルノブイリ級の重大事故となり、いまだに収束のめどは立っておりません。故郷や田畑、山林が放射能で汚染され、愛情をかけた家畜とも別れ、見えない放射能の不安におびえて暮らしておられます。いつになったら自宅に帰れるのか、事業が再開できるのか、今後の生活のめどさえ立たない状況が続いております。

川棚町は、佐賀県の玄海原発から50キロメートルの圏内に入っており、他人事ではありません。玄海原発は運転開始から35年8か月の老朽原発で、1号機の原子炉は日本で一番われやすい事がわかりました。

使用済み燃料も1688体で、貯蔵能力も限界です。

また佐世保港に入港する原子力空母です。動く原発と言われる原子力空母の原子炉は、福島第1原発とほぼ同じ40万キロワットと、その危険性は陸上の原発以上です。福島原発と同様の事故を起こす危険性があります。

このことを教訓にして川棚町地域防災計画に追加して記載すべきと考えるが、町長の見解を尋ねます。

### 町長

長崎県でも、原子力災害対策について、見直しを考えている。それを持って検討していきたい。(ウラに続く)

